

注射・点滴療法 資料

くらしの診療所

〒194-0013 町田市原町田6-29-3-302

TEL 0428509049

ビタミン・ミネラル注射点滴の投与について 確認しておいていただきたい事



軽度

1～2週間続いている

ニンニク注射

¥2,750 所要時間15分
頻度＝週に1回を3ヶ月

代謝をUP! 疲れを改善したい

⇐ あなたが感じる疲れはどのレベル? ⇨

重度

慢性的に疲労を感じている

ビタミン・ミネラル点滴

¥8,800 所要時間30分
頻度＝週に1回を3ヶ月



ビタミンB1 誘導体アリナミンで効率よく身体に吸収

ビタミンB1
50mg

循環を亢進し、
血液形成と
炭水化物代謝
を助ける。

ビタミンB2

酸素を使用し
アミノ酸、脂肪酸
炭水化物の代謝の
ために身体が
必要とする。

ビタミンC

アスコルビン酸は、
優れた抗酸化物質で
身体の汚染物質から
の保護を促進する。
免疫機能を向上
させる。

ビタミンB1
50mg

循環を亢進し、
血液形成と
炭水化物代謝
を助ける。

ビタミンB2

酸素を使用し
アミノ酸、脂肪酸
炭水化物の代謝の
ために身体が
必要とする。

ビタミンB3

細胞呼吸に必要で、
エネルギー放出と炭水化物、
脂肪、蛋白質の代謝、
正常な循環と健康な皮膚、
神経系の機能、胆汁と
胃液の正常な分泌を
助ける。

ビタミンC

アスコルビン酸は、
優れた抗酸化物質で
身体の汚染物質から
の保護を促進する。
免疫機能を向上
させる。

ビタミンB5

副腎を助けるため、
コルチゾンなどの
ホルモン分泌に
重要な役割を
担っている。

ビタミンB6

女性のホルモン変化の
バランスをとり、
免疫系と新しい細胞の
成長を助けるために
必要である。

ビタミンB12

赤血球の産生と
維持に必要で、食欲を
刺激し、成長を促進
し、エネルギーを
放出する。

カルシウム

骨構造の形成、
特に骨が成長する若年期
とカルシウム吸収が
低下する老年期に
必要である。

マグネシウム

カルシウムとともに
筋肉、神経刺激、骨密度
を維持するよう
機能する。

ビタミン・ミネラル注射点滴の投与について 確認しておいていただきたい事



もっとキレイを手に入れたい



血行、代謝の促進
肌状態の改善（シミ、シワ、ニキビなど）
アレルギー体質の改善
創傷の治癒促進
自律神経系の調節 内分泌系の調節
疲労改善、熟睡
更年期障害の改善
肝炎の改善

プラセンタ

¥1,650～（1A）1A追加毎に¥550追加
1日1Aを目安にして
1回2A 2回～3回/週 最初の1ヶ月
その後 1回/1～2週
所要時間15分
1回の容量については初回医師の診察を受けて決定

（プラセンタ含有物）

アミノ酸、タンパク質、ビタミン
ミネラル、糖質、核酸構成物質、ムコ多糖体
SAアミノ酸、酵素類、細胞増殖【成長】因子
サイトカイン、核酸塩基

肌のトラブル全般
くすみ解消
解毒（デトックス）
アンチエイジング
美白・美容
肝機能の改善
抗酸化作用

美肌・美白点滴

【白玉点滴】¥4,970
1回/週
所要時間30分

（白玉点滴含有物）

ビタミンB1、ビタミンB6、ビタミンB12
ビタミンH、ビタミンC、L-システイン
グルタチオン、トランサミン

最近シミが気になる
お肌に透明感が欲しい
日焼けをしてしまった
毛穴の開きが悩み
ニキビや肌荒れに悩んでいる
お肌の弾力がなくなった
髪にコシ・ツヤがなくなった

高濃度ビタミンC

高濃度ビタミンC点滴
ビタミンC 12.5g ¥10,000
25g ¥15,000 50g ¥25,000
15g以下 1～2回/月
25g 1回/月
所要時間60分/回
初回別途 G6PD活性定量検査代 ¥8,800が必要
G6PD欠損症という赤血球膜の遺伝性酵素異常がある
方は治療を受けることができません。
25g～50g以上のビタミンC点滴を行う前に必ず
G6PDの検査を実施しています。

ビタミン・ミネラル注射点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

人間の体の中に存在する栄養素である
ビタミンとミネラルだけの注射点滴療法です。
症状や身体の状態に合わせて必要な
ビタミンや有効成分を静脈内に投与できるため、
サプリメントを経口で摂取するのに比べて、
非常に高い効果を直接身体に働きかける事が期待できます。

《ニンニク注射（ビタミン注射）》

ビタミンB1 50mg
ビタミンB2
ビタミンC

《ビタミン・ミネラル点滴》

Ca・Mg
ビタミンB1 120mg
ビタミンB2 ビタミンB3
ビタミンB5 ビタミンB6
ビタミンB12 ビタミンC

ビタミン・ミネラル注射点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

有効性が期待される疾病
様々な病気に対する効果が期待されます。
以下はその一部です。

気管支喘息、偏頭痛発作、全身倦怠感・疲労、
慢性疲労症候群、線維筋痛症、こむら返り、
急性上気道炎、慢性副鼻腔炎、
アレルギー性鼻炎慢性蕁麻疹、甲状腺機能亢進症、
心不全、狭心症、生理不順など。

ビタミン・ミネラル注射点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

【副作用について】

もともと人間の体の中に存在する栄養素である
ビタミンとミネラルの点滴療法です。

副作用は殆どないと言われています。

血管穿刺部の痛みなどの症状が起こる事がありますが、
点滴速度の調節、保温することで多くは解決されます。

ビタミン・ミネラル注射点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

当治療法は健康保険が適応されず、
治療、検査、処方のすべてが自費診療となります。

治療内容や費用などの説明を受け、
十分に納得されましたら治療同意書に署名をいただきます。

症状に合わせて調合した点滴を

約40分間かけて点滴します。

週に1回から10日に1回の頻度で
10回くらい続ける事をお奨めします。

ビタミン・ミネラル注射点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

○カルシウム

カルシウムは、骨構造の形成、特に骨が成長する若年期とカルシウム吸収が低下する老年期に必要である。カルシウムは、心臓と神経の健康も促進し、血栓にも役立つ。西洋の食事のほとんどは、わずかにカルシウムが不足している。その症状には、筋痙攣、関節痛、不眠症、齲歯および高血圧などがある。重度の欠乏症により骨粗鬆症になりうる。

○マグネシウム

カルシウムとともに筋肉、神経刺激、骨密度を維持するよう機能する。これは、多くの酵素経路の機能にも不可欠で、蛋白質合成と一部のホルモン産生とも関係がある。マグネシウム不足は、心血管疾患および筋痙攣と強い関係がある。一部の心臓発作は、心臓へとつながる動脈の遮断ではなく痙攣によるという強力な証拠がある。マグネシウムは、クロロフィルの重要な成分であり、全ての葉物野菜、ナッツ類、種子類に含まれている。

ビタミン・ミネラル注射点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

【ビタミンB群】

B複合体：B1、B2、B3、B5、B6、葉酸、ビオチン、B12。

ビタミンB群は水溶性で、毎日摂取が必要になる。要するに、これらは、免疫、ホルモンバランス、循環、エネルギー産生、ストレス管理など我々の健康維持のために多くの役割を担っている。
多くのビタミンB群は小腸で産生される。

○ビタミンB1

チアミンは、循環を亢進し、血液形成と炭水化物代謝を助ける可能性がある。神経系の健康にも必要で、神経伝達物質のアセチルコリンとガンマアミノ酪酸（GABA）など多くの細胞抗生物質の生合成に使用される。これは、塩酸の産生にも使用されるため、消化の役割を担っている。また、脳にも重要であるため、うつ病に役立ち、記憶と学習を助けると考えられる。ビタミンB1は小児の成長に必要で、関節炎、白内障、不妊症にも役立つことが示されている。

ビタミンB1を多く含む食べ物 ひまわりの種、ピーナツ、小麦胚芽、牛の肝臓、豚肉、魚介類、卵黄、豆類には多くのチアミンが含まれている。

ビタミン・ミネラル注射点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

○ビタミンB2

酸素を使用し、アミノ酸、脂肪酸、炭水化物の代謝のために身体が必要とする。リボフラ빈は、ビタミンB6（ピリドキシン）の活性化に必要で、ナイアシンの産生と副腎を助ける。赤血球の産生、抗体産生、細胞呼吸および成長に使用される場合もある。

ビタミンB2は、涙を伴う眼精疲労を和らげ、白内障の予防および治療に役立つと考えられる。ビタミンB2は、消化管の筋膜の健康に必要で、鉄とビタミンB6の吸収を助ける。これは、急成長期に必要であるが、蛋白質の摂取量が多いときにも必要で、皮膚、髪および爪に最も有用である。

ビタミンB2を多く含む食べ物 内臓肉、ナッツ類、チーズ、卵、牛乳、赤身の肉はリボフラ빈の宝庫であるが、緑の葉物野菜、魚、豆類、全粒穀物、ヨーグルトにも多い。

ビタミン・ミネラル注射点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

○ ビタミンB3

ビタミンB3は、細胞呼吸に必要で、エネルギー放出と炭水化物、脂肪、蛋白質の代謝、正常な循環と健康な皮膚、神経系の機能、胆汁と胃液の正常な分泌を助ける。ビタミンB3は、性ホルモンの合成に使用され、統合失調症やその他の精神疾患を治療し、記憶を向上させる。薬剤の中に入っているニコチン酸（ニコチンアミドではない）は血中コレステロール値を改善し、特定の殺虫剤など身体から有機毒物を排出するために使用されている。このビタミンが十分にある場合、意識の覚醒度が高いと報告されている。

ビタミンB3を多く含む食べ物 肝臓、赤身の肉、家禽類、魚、ウサギ、ナッツ類、ピーナッツ、イースト、肝臓などの肉類、シリアル、豆類、アスパラガス、種子類、牛乳、緑の葉物野菜、魚。

ビタミン・ミネラル注射点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

○ビタミンB5

ビタミンB5は副腎を助けるため、コルチゾンなどのホルモン分泌に重要な役割を担っている。このようなホルモンは代謝やアレルギーへの対処を助け、健康な皮膚、筋肉、神経に有用である。パントテン酸も、エネルギー放出、脂肪、蛋白質、炭水化物の代謝に使用される。これは、脂質、神経伝達物質、ステロイドホルモン、ヘモグロビンの産生に使用される。

パントテン酸はしわや白髪に役立つと考えている人もいる。

ビタミンB5を多く含む食べ物 牛肉、醸造用酵母、卵、新鮮な野菜、腎臓、豆類、肝臓、キノコ類、ナッツ類、豚肉、ローヤルゼリー、海水魚、トルラ酵母、全粒粉、ライ麦粉、全粒小麦

ビタミン・ミネラル注射点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

○ビタミンB6

ピリドキシンは、女性のホルモン変化のバランスをとり、免疫系と新しい細胞の成長を助けるために必要である。これは、蛋白質、脂肪、炭水化物の処理と代謝にも用いられるが、気分や行動のコントロールにも役立つ。ピリドキシンは、学習障害のある小児や、ふけ、湿疹、乾癬にも役立つ可能性がある。

これは、ナトリウムとカリウムのバランスをとり、赤血球産生の促進を支援する。さらに、核酸であるRNAとDNAにも関与している。

癌化しないこととも関連しており、心筋を損なう有毒化合物であるホモシステインの産生を防ぐ。特に女性は、月経前の体液貯留、重度の月経痛、月経前症候群、月経前のにきび、妊娠初期の吐き気が発現する場合がある。

ピリドキシンが不足する場合およびホルモン補充療法または避妊ピルを使用している場合、気分の揺れ、うつ病、性的衝動の低下が生じることがある。

ビタミンB6を多く含む食べ物 ピリドキシンの多い食べ物には、醸造用酵母、卵、鶏肉、 にんじん、魚、肝臓、腎臓、エンドウ豆、小麦胚芽、クルミがある。

ビタミン・ミネラル注射点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

○ビタミンB9

葉酸は、DNA合成と細胞の成長に必要であり、赤血球形成、エネルギー産生、アミノ酸形成に重要である。葉酸は、酸素輸送に必要なヘモグロビン中の酸素含有物質ヘムの産生に不可欠である。葉酸は、RNAおよびDNA合成に酵素として関与しているため、健康な細胞分裂と複製に重要である。蛋白質の代謝や葉酸欠乏性貧血の治療にも必要である。葉酸は、消化や神経系を補助し、精神および感情の健康改善にも役立つ。この栄養素は、うつ病と不安の治療に有効と考えられる。葉酸の不足は、下痢、胸焼け、便秘として現れる。葉酸は、成長している胎児の神経系の発達に非常に重要である。

ビタミンB9を多く含む食べ物 新鮮な緑色野菜。例えば、ほうれん草やブロッコリーは葉酸が豊富である。果物、デンプンの多い野菜、豆類、全粒穀物、肝臓にも含まれている。

ビタミン・ミネラル注射点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

○ビタミンB11

コリンは、体重とコレステロール値の管理、健康な細胞膜の維持、胆石予防を助ける。また、神経系の維持に最も有効で、記憶と学習を助け、肝炎やAIDSなどの感染症との闘いにも有用である。コリンは、正常な膜構造と機能に非常に重要である。コリンは、ベタインの主要な前駆体であり、腎臓の水分バランスの維持、肝臓のメチオニン形成のためのメチル基の素として使用される。

また、重要な神経伝達物質であるアセチルコリンの産生にも使用される。

コリンは、神経刺激伝達、胆嚢の制御、肝機能、レシチン産生も支援する。

ビタミンB11を多く含む食物 コリンは、卵黄、牛肉、小麦胚芽、オーツ麦、ナッツ類に含まれている。

くらしの診療所

ビタミン・ミネラル注射点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

○ビタミンB12

コバラミンは、赤血球の産生と維持に必要で、食欲を刺激し、成長を促進し、エネルギーを放出する。高齢者においてエネルギーを増強し、知的機能の低下予防や思考プロセスの加速に役立つ。感染症を一掃し、アレルギーおよび癌の予防に役立つと考える人もいる。このビタミンは、脂肪、蛋白質、炭水化物の代謝にも使用される。

ビタミンB12を多く含む食物 ビタミンB12は、肝臓、内臓肉、筋肉、甲殻類、卵、チーズ、魚に含まれており、体内でも産生できる。牛乳にはビタミンB12が含まれているが、加工するとビタミンが破壊される場合がある。

くらしの診療所

ビタミン・ミネラル注射点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

【ビタミンC】

ビタミンCは、結合組織におけるコラーゲン合成、神経伝達物質、ステロイドホルモン、カルニチン、コレステロールの胆汁酸への変換、鉄分の吸収率改善に必要である。アスコルビン酸は、優れた抗酸化物質で、身体の汚染物質からの保護を促進する。ビタミンCは、生物学的還元剤で、白内障、ある種の癌および心血管疾患などの変性疾患の予防と関連がある。アスコルビン酸は、健康な細胞の発達、正常なカルシウム吸収、傷や火傷の治癒など正常な組織の成長と修復も促進する。これは、血液凝固や打撲の予防、毛細血管壁の強化も助ける。

ビタミンCは、健康な歯茎、感染予防に必要で、感染症の一掃を助け、免疫系を強化し、コレステロール値と高血圧を低下させ、動脈硬化を予防すると考えられている。

ビタミンCを多く含む食べ物 緑の葉物野菜、ベリー類、柑橘類、グアヴァ、トマト、メロン、パパイアなどにビタミンCが多く含まれている。

くらしの診療所

プラセンタの投与について 確認しておいていただきたい事

《こんなお悩みをお持ちの方に》

- ・肌の状態が良くない・手足の冷えが気になる
- ・疲れが取れにくい・更年期による諸障害
- ・飲みすぎ、二日酔い

《主成分「プラセンタ」の主な効果》

- ・乾燥肌、肌荒れ、皮膚の老化改善などの美肌促進作用
- ・活性酸素除去作用による老化防止
- ・疲労回復・血行促進・改善・肝機能向上 など

プラセンタの投与について 確認しておいていただきたい事

【プラセンタ】

これまでに医師が確認した主な臨床例

- (1)血行、代謝の促進 (2)肌状態の改善 (シミ、シワ、ニキビなど)
- (3)アレルギー体質の改善 (4)創傷の治癒促進
- (5)肝機能強化 (6)増血作用 (7)自律神経系の調節内分泌系の調節
- (8)タンパク質の同化 (9)乳腺発育の促進 (10)疲労改善、熟睡
- (11)更年期障害の改善 (12)肝炎の改善 (13)胃潰瘍の改善
- (14)頭髮発毛効果

くらしの診療所

プラセンタの投与について 確認しておいていただきたい事

【プラセンタ含有物】

- ①アミノ酸：ロイシン、リジン、バリン、スレオニン、イソロイシンなどの必須アミノ酸、グリシン、アラニン、アルギニンなどの21種類のアミノ酸。
- ②タンパク質：アルブミン、グロブリンなど。
- ③ビタミン：ビタミンB1・B2・B6・B12、ビタミンC、ビタミンD、ビタミンE・ナイアシンなど。
- ④ミネラル：カルシウム、ナトリウム、カリウム、リン、亜鉛、鉄など。
- ⑤脂質・脂肪酸：コレステロール、ホスファチジン酸、ホスファチジルエタノールアミン、ラウリン酸、パルチミン酸など。
- ⑥糖質：グルクトース、ガラクトース、蔗糖。
- ⑦核酸構成物質：ウラシル、アデニン、グアニンなど。
- ⑧ムコ多糖体：ヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸など。
- ⑨SAアミノ酸：スーパーアクティヴアミノ酸。
- ⑩酵素類：アルカリホスファターゼ、酸性ホスファターゼ、ヒアルロニダーゼなど数百以上。
- ⑪細胞増殖【成長】因子 全ての細胞増殖因子が見つかる組織はプラセンタだけと言われています
- ⑫サイトカイン サイトカインは、免疫担当細胞の増殖、機能獲得・付与のための分化などを指示する、細胞増殖因子の中の1つの活性物質群のことです
- ⑬核酸塩基はDNA（デオキシリボ核酸）やRNA（リボ核酸）の基本物質ですが、核酸塩基には、強力な抗酸化作用があります

プラセンタの投与について 確認しておいていただきたい事

【効果を高める注射の打ち方】

最初の3ヶ月は治療間隔を短くした方が効果が実感しやすい

週2回通院可能	→ 1回2~3A
週1回通院可能	→ 1回3~4A
10~14日に1回通院可能	→ 1回4~6A
3週間に1回通院可能	→ 1回6~8A
1ヶ月に1回通院可能	→ 1回8~10A(8A以上は効果に変化無しと報告あり)

プラセンタの投与について 確認しておいていただきたい事

【効果を高める注射の打ち方】

疾患名	通院頻度	期間の目安
更年期障害・乳汁分泌不全	週に1～2回	3～6ヶ月
月経困難・月経不順	週に1～2回	3～6ヶ月
花粉症	週に1回	3ヶ月
アトピー性皮膚炎	週に1～2回	3～12ヶ月
気管支ぜんそく	週に1～2回	3～12ヶ月
慢性肝炎	週に1～3回	6～12ヶ月
関節リウマチ	週に1～3回	6～12ヶ月
抗疲労効果	適宜	6～12ヶ月

くらしの診療所

プラセンタの投与について 確認しておいていただきたい事

【副作用について】

- 注射部位の疼痛
- 過敏症（発疹・発熱・掻痒感など）
- 注射部位の硬結
- 頭痛
- 肝機能障害（AST,ALT 上昇など）が報告されています。

プラセンタの投与について 確認しておいていただきたい事

【デメリット】

プラセンタ注射経験者は献血（臍帯血含む）できません。
臓器提供もできません。
プラセンタ自体がヒト組織由来のものから作られるので、
倫理的なリスクを否定できないことから、
禁止となります。（内服やドリンク製品は可能です）

くらしの診療所

美肌・美白(白玉点滴)の投与について 確認しておいていただきたい事

「グルタチオン」はメラニン色素生成を抑制するため
「美肌」「美白」に効果があり、シミや肝斑の改善、
予防など「エイジングケア」にも効果があります。
また、抗アレルギー作用により、湿疹、じんま疹、皮膚炎や
皮膚疾患などの「アレルギー疾患」にも効果があります。

- ・ 美肌
- ・ 美白
- ・ エイジングケア
- ・ アレルギー疾患

くらしの診療所

美肌・美白(白玉点滴)の投与について 確認しておいていただきたい事

お肌の悩み

「グルタチオン」はメラニン色素生成を抑制するため「美肌」「美白」に効果があり、シミや肝斑の改善、予防など「エイジングケア」にも効果があります。また、抗アレルギー作用により、湿疹、じんま疹、皮膚炎や皮膚疾患などの「アレルギー疾患」にも効果があります。

- ・ 美肌・美白
- ・ エイジングケア・アレルギー疾患

くらしの診療所

美肌・美白(白玉点滴)の投与について 確認しておいていただきたい事

肝臓機能

- 肝臓の解毒作用が高まることで「二日酔い」や「慢性疲労」、「ストレス」の改善が期待できます。また、連鎖して発症しやすい「不眠」などの症状にも効果が期待でき、体内の一連した機能の改善から「免疫力向上」といったベースアップを目指すことができます。
- お酒の飲みすぎ、二日酔い ・ ストレス、慢性疲労、だるさ
・ 不眠 ・ 免疫力向上

くらしの診療所

美肌・美白(白玉点滴)の投与について 確認しておいていただきたい事

【副作用】

グルタチオンは一般的に
広く使用される成分ではありますが、
それでも副作用が出ることは考えられます。
起こりうる副作用は、発疹・発熱・掻痒感、
そして軽い吐き気や食欲不振、頭痛など。
ごく稀に重篤な副作用として
アナフィラキシー様症状の危険性もあります。
グルタチオン以外にも様々なビタミンを併用して
投与することも多いので、それらの副作用も併せて
把握する必要があります。

美肌・美白(白玉点滴)の投与について 確認しておいていただきたい事

【デメリット】

美白にとっても効果がある白玉点滴ですが、
一度だけの施術では美白効果は
ほぼ得られない場合があります。
グルタチオンの濃度によっても異なるので
一概には言えませんが、
継続しておこなうことで満足のいく結果を出し、
なおかつ維持することが出来るメニューとなっています。

高濃度ビタミンC点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

高濃度ビタミンC点滴療法は、がんの先進治療として
アメリカを始め世界中で研究・実践されている最先端の治療法です。
この点滴療法に美肌や疲労回復、
健康維持などの効果があることから、
アンチエイジング分野でも
広く使用されるようになりました。
アンチエイジングなど、がん治療以外で
高濃度ビタミンC点滴を行う場合は、多くの場合が
12.5gから25gのビタミンCを使用します。

くらしの診療所

高濃度ビタミンC点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

【生活習慣が気になっている】

- ・タバコをたくさん吸う
 - ・お酒をよく飲む
- ・ストレスを溜めやすい
 - ・外にいることが多い
 - ・よく運動をする
- ・疲れ・倦怠感を感じる人が多い
 - ・寝起きが悪い
 - ・免疫低下を感じる

くらしの診療所

高濃度ビタミンC点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

【お肌などの悩みがある】

- ・ 最近シミが気になる
- ・ お肌に透明感が欲しい
- ・ 日焼けをしてしまった
 - ・ 毛穴の開きが悩み
- ・ ニキビや肌荒れに悩んでいる
 - ・ お肌の弾力がなくなった
- ・ 髪にコシ・ツヤがなくなった

くらしの診療所

高濃度ビタミンC点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

【病気を予防・改善したい】

- ・ 風邪・インフルエンザの予防
 - ・ ガン予防を考えている
 - ・ 老化を遅らせたい
 - ・ 歯周病が心配
 - ・ アトピーを改善したい
- ・ うつ病・精神状態を改善したい

高濃度ビタミンC点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

【副作用・合併症】

- ・ G6PD欠損症による溶血クリーゼ
 - ・ 腫瘍壊死・出血、発熱
 - ・ 吐き気、嘔吐、頭痛
 - ・ 低カルシウム血症
- ・ 打撲等既往部位の内出血
 - ・ 血管痛・ 低血糖

高濃度ビタミンC点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

【デメリット】

『高濃度のビタミンC点滴』には利尿作用があるため、
のどが渇くことがあります。
当院では点滴中、水分をしっかり補給していただくため、
お水をご用意しています。

点滴中、血管の痛みを感じる場合があります。
『高濃度ビタミンC点滴』を、空腹時に受けると
低血糖（症状：冷汗、めまい、動悸など）を引き起こすことがあります。
このため、空腹ではない状態で点滴を受けることをおすすめします。

まれに、だるさや眠気などを感じる場合があります。
上記のような症状を感じられた場合は、医師へお伝えください。
（点滴の方法・間隔・回数などの調整で改善されます）

G6PD欠損症の方は、『高濃度ビタミンC点滴』を受けられません。
心不全や腎機能に問題のある方は、『高濃度ビタミンC点滴』を受けられないことがあります。

高濃度ビタミンC点滴の投与について 確認しておいていただきたい事

【高濃度ビタミンC点滴療法の研究】

1970年に、Linus Carl Pauling博士らがビタミンCとがんに関する論文を、『アメリカ科学アカデミー紀要（※）』に発表しました。

その内容は、「ビタミンCを適切に使用することで、
進行期のがん患者でも、その生存期間を延長できた」

というものです。そして2005年には、アメリカ国立衛生研究所（NIH）によって「ビタミンCは、正常な細胞を傷つけることなく、抗がん剤として作用する」という論文が発表され、高濃度ビタミンC点滴療法はアメリカ・カナダを中心に普及し始めました。

ビタミンCは多く摂るとほとんどは吸収されずに体外へ排出されてしまいますが、点滴は直接体内へ注入するため、経口摂取の数十倍以上の濃度で全身に行き渡ります。全身に行き渡った高濃度のビタミンCは、体内の金属と反応して活性酸素を発生し、細胞を攻撃します。正常な細胞は、活性酸素を中和する酵素を十分にもっていますが、がん細胞にはそれがありません。その結果、正常な細胞はそのまま、がん細胞だけが攻撃されることになるのです。

- ※Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America